

午前10時、野生動物保護センターを見学しました。センター内を見学する前にセンター長に概要を説明していただきました。このセンターはタイの中央部に位置し、74のサブセンターがあります。ここでは12 km<sup>2</sup>の土地に鳥類、哺乳類、爬虫類の24種約500頭を保護しています。その中でも主要なものはベンガルタイガーであり、他のネコ科(ヒョウ、ヤマネコ類)も合わせると56頭いるそうです。これらの動物は、民間から通報があつて保護、あるいは違法に輸出しようとしているところを通報されてここで保護されました。このセンターには野生動物の保護、治療、繁殖の3つの役割があります。今抱えている問題として、違法にとらえられた野生動物の保護にはこのセンターの敷地面積では限界があることを挙げていました。交通の便が良いタイは、需要がある国と他の国との中継地点ともなっていることもあり、多くの違法動物がタイ国内に持ち込まれています。そのため今年から違法捕獲を取り締まる法律が厳しくなり、保護数が増えているのが現状です。その対策として檻の大きさを拡張すること、このような保護センターを増やす必要があるとのことでした。

その後施設内を見学。その中にはインドネシアから密輸されたオラウータンもいました。トラは人に慣れていて見学者の方へ寄ってくるもの、人の方へ飛びかかりそうなものそれぞれで、人になつているか警戒しているかはっきりわかりました。最後に1歳未満のトラを見せていただきました。だいぶ人になつて近くで触ってもいいとのことだったので、みんな興味津々でした。人になつかせるのは、イベントに連れて行き実際に触れてもらうことを通じて、より一般の人にトラを理解してもらうためだそうです。

昼食後、野生動物保護センターの展示館へ行きました。車を降りると、野生の猿が出迎えてくれました。ニホンザルと同じくらいの大きさで警戒する素振りも見せず、木の実を頬張っていました。この展示館は、野生動物保護センターが運営しており、運営資金は自然公園局から出ているそうです。入場料は無料で一般市民の方に解放されており、去年1年間で約2万人が来場したそうです。実際に、私たちが見学している最中も、一般の家族連れを何組か目にしました。園内には、日本では見られない珍しい動物たちがたくさんいました。この園内に展示さ



保護した鳥類を見学中



保護されたトラ



希少種のシカ

れている動物たちの中には、自然界で絶滅してしまった動物もあり、野生動物保護センターではその動物たちを繁殖し、自然に戻す取り組みを行っています。去年1年間で、3回に分けて約22匹の“サンバ一鹿”を自然に戻したそうです。しかし、単純に自然に戻すだけでは、希少種なため狩猟されてしまうので、戻すのは自然保護地区と決めているそうです。

絶滅から保護するための動物だけではなく、違法動物としてタイに持ち込まれた動物もたくさんいました。ほとんどが、トラやクマなどの大型動物でした。このような動物はまだ身体の大きさが小さいころに、トランクなどに入れられ飛行機に乗って違法に輸入されることもあるそうです。実際にスーツケースに入れられ、タイのスワンナプーム国際空港まで連れて来られたトラがいました。名前は空港にちなんでプーム君だそうです。こういった違法動物たちは長い間、人間と接しているのです。凶暴とされるトラやクマであっても人慣れしている様でした。動物たちを見に来る一般人にとっては、人なつっこい動物はとても愛嬌があり可愛い存在です。しかし、もとは違法動物であるという背景を考えると、可愛いという感情だけでは済ますことが出来ません。動物を愛玩動物として捉える人、商業用として捉える人の気持ちの差がこのような違法動物を生み出してしまうのだと感じました。そこに、野生動物保護の難しさを感じ取ったように思います。